

英語指導助手配置事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	シーリング	内・外	部局名	教育庁	課名	義務教育課	課長名	淵本 幸嗣	
福井ふるさと元気宣言 における位置付け	<input type="checkbox"/> 政推枠	ビジョン	[元気な社会]			事業 区分	<input type="checkbox"/> 国庫	■ 実行予算	事業 開始 年度	S45 年度	事業終了 予定年度	H31 年度
関連する県の計画等	政策	[福井から人材育成]			<input type="checkbox"/> 県単		<input type="checkbox"/> 補助金	経過年数				
			[教育振興基本計画]			<input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> その他		47 年			

[事業目的]

外国語指導助手（ALT）を配置し、中学生に生きた英語に接する機会を提供し、国際社会の中で活躍できる人材を育成する。

[事業内容]

- 県内中学校に英語指導助手を配置し、生徒に生きた英語に接する機会を提供
- 1 配置人数 65名（中学校 56名＋新規9名）
 - 2 業務内容
 - （1）英語授業におけるティーム・ティーチング
 - （2）教材作成等の授業準備
 - （3）授業での課題や宿題の対応（英作文の添削等）
 - （4）英語教育に関する活動（中学校英語セミナー等）の支援
 - （5）放課後に生徒と英会話教室

（単位：千円）

区 分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由
当初予算額の推移	250,194	243,820	249,351	249,641	332,014	373,200	373,200	英語指導助手9名増員に伴う増額
2月現計予算額の推移	243,500	242,132	241,929	240,559				
決算額の推移	241,158	237,392	235,161					

[成果指標等の推移]

区 分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠
成果指標 英語授業時間の半分以上 英語を使用する学校の割合	(目標) 実績 50.0%	56.6%	55.3%	56.2%	(56.5%)	(57.0%)	(57.5%)	文部科学省の「英語教育実施状況調査」の結果より
活動指標 ALT配置数（中学校）	(目標) 実績 48	48	47	56	(65)	(74)	(74)	

[財源内訳・事業主体等]

区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体	県
予算額	332,014			(諸) 32,485	299,529	事業実施方法	直営
						補助率	

事業評価

事業名	英語指導助手配置事業	部局名	教育庁	課名	義務教育課	課長名	淵本 幸嗣	
<p>[事業の必要性・要求の背景]</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成32年度の国の学習指導要領改訂では、中学校でもオールイングリッシュによる授業が始まる。また、国は、話す力を含めた英語力を評価する「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」が平成32年度から実施される。 これらの国の動きに対応するため、平成32年度に大学入試を受験する現中学校1年生から、今まで以上に英語を話す力を育成する必要がある。 								
<p>[受益者]</p> 小学校・中学校の児童・生徒				<p>[想定される受益者数]</p> 66,000人				
他県の状況	石川県 ・県立高校、県立中学、教育センターに44名の英語指導助手を配置（JETプログラムによるALT：県立高校42名、県立中学校1名、センター1名） 富山県 ・高校に英語指導助手44名を配置（JETプログラムによるALT：県立高校37名、私立高校7名）	前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 （実績）					
関連事業の有無・役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 外国語指導助手配置事業（学校教育政策課） （役割分担） ・ALT35名を高校に配置 ・新規オリエンテーション（東京・福井：7月下旬） ・JET県全体研修（11月） ・中学校英語セミナー等の支援 ・高校の授業に支障がない場合、小学校の要請を受け、高校配置ALTが小学校で英語指導を行う。	市町との連携状況	・市町が独自に雇用しているALTは44名（JET、直接雇用、委託等）であり、市町によって配置人数や授業担当時間に差がある。 ・中学校の授業に支障がない場合、小学校の要請を受けて、中学校配置ALTが小学校で英語指導を行う。					
[事業の評価]								
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点			事業評価			
○56名のALTを配置し、県内全中学校の全学級において、ALTとのチーム・ティーチングを週1時間実施		○大規模校や地域バランスを考慮して中小規模校に、新たに9名のALTを配置し、65名に増員 ・ALTが2名増員された学校では、授業時間を1.5倍に増やし、授業を実施 ・授業での課題や宿題の対応（英作文の添削等） ・英語教育に関する活動（中学校英語セミナー等）の支援 ・放課後に生徒と英会話教室			<input checked="" type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
					<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	
					<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

道徳教育総合推進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	内	部局名	教育庁	課名	義務教育課	課長名	淵本 幸嗣	
福井ふるさと元気宣言 における位置付け	<input type="checkbox"/>	政推枠	ビジョン [元気な社会]			事業 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 国庫	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算	事業 開始 年度	H23 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度	H31 年度
関連する県の計画等		政策	[福井から人材育成]				<input type="checkbox"/> 県単	<input type="checkbox"/> 補助金				
[教育振興基本計画]												

[事業目的]
平成30年度からの道徳の時間の教科化を踏まえ、地域の実情に応じた特色ある道徳教育を研究するとともに、本県独自の道徳教育用教材を作成、活用し、夢や目標を持った児童・生徒の育成を図る。

[事業内容]
①福井の先人たちの生き方から学ぶ道徳教育を充実「福井県版心のノート（小学校）」「ふくい希望（中学校）」の作成・配布
「心のノート（小学校）」、「ふくい希望（中学校）」を活用し、福井の先人の生き方から学ぶ道徳教育を実施し、ふるさと福井への愛着を育てる。
②「私の夢カルテ」の作成・配付
自分の体験や考えたことをもとに「私の夢カルテ」として記録し、小学4年生から6年生まで、中学1年生から中学3年生までそれぞれ持ち上がり、夢の実現に向けて自分を振り返る学習を実施
③保護者・地域参加型の道徳授業「親子で学ぶ道徳講座」の開催（市町補助）

（単位：千円）

区 分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由
当初予算額の推移	13,830	11,987	5,744	5,892	5,748	5,748	5,748	職員旅費の減額
2月現計予算額の推移	8,698	4,289	5,744	2,711				
決算額の推移	7,783	4,141	2,488					

区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠
成果指標	「将来の夢や目標を持っている」と答える児童の割合（小学校） （目標）		(74%)	(75%)	(75%)				H31年度までに85%を目標とする。 （全国学力調査質問紙の結果より）
	実績	68.1%	74.7%	74.6%	79.8%				
成果指標	「将来の夢や目標を持っている」と答える生徒の割合（中学校） （目標）		(48%)	(48%)	(48%)				H31年度までに70%を目標とする。 （全国学力調査質問紙の結果より）
	実績	44.7%	47.1%	47.4%	60.3%				
活動指標	福井県版「心のノート」 配布部数 （目標）	(32,900)	(32,900)	(32,000)	(32,000)				配布実績
	実績	32,920	32,460	31,705	31,528				
活動指標	親子で学ぶ道徳講座実施 校数 （目標）	(10)	(10)	(10)	(10)				市町事業実績
	実績	9	10	12	11				

[財源内訳・事業主体等]							
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体	県
予算額	5,748	5,748			0	事業実施方法	直営
						補助率	

事業評価

事業名	道徳教育総合推進事業	部局名	教育庁	課名	義務教育課	課長名	淵本 幸嗣	
[事業の必要性・要求の背景]								
<ul style="list-style-type: none"> ・ 近年、いじめ問題に起因して、子どもの心身の発達に重大な支障が生じる事案や、尊い命が絶たれるといった痛ましい事案まで生じており、いじめを早い段階で発見し、全ての子どもを救うことが喫緊の課題となっている。 ・ このため国は、平成27年3月27日に学校教育法施行規則を改正し、平成30年4月1日から道徳を教科化することとしている。 								
[受益者]				[想定される受益者数]				
小学校・中学校の児童・生徒				66,000人				
他県の状況	47都道府県すべてで国の道徳教育総合推進事業を実施			前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)			
関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)			市町との連携状況	保護者・地域参加型の道徳授業「親子で学ぶ道徳講座」を実施			
[事業の評価]								
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点			事業評価			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 福井県版心のノート（小学校）、ふくい希望（中学校）、「私の夢カルテ」を作成し、全公立小中学校に配布。 ・ 「親子で学ぶ道徳講座」を6市町11校で実施。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳の教科化を踏まえた道徳担当教諭の研修の実施 ・ 「親子で学ぶ道徳講座」を中学校まで対象を拡大 			<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
					<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	
					<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

古典学習支援事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	教育庁	課名	義務教育課	課長名	淵本 幸嗣	
福井ふるさと元気宣言 における位置付け		■ 政推枠	ビジョン [元気な社会]			事業 区 分	<input type="checkbox"/> 国庫	■ 実行予算	事業 開始 年度	H28 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度	H31 年度
関連する県の計画等			政策 [福井から人材育成]				<input type="checkbox"/> 県単	□ 補助金				
[事業目的]												
福井にゆかりのある百人一首などの作品を取り入れた独自教材を作成し、小中学生が古典にふれる機会を増やし、古典学習の充実を図る。												
[事業内容]												
○百人一首や古文などの作品を掲載した「古典・音読暗唱ノート」を作成し、県内小、中学生に配布し、国語などの授業で活用												
(主な掲載作品)												
・ 本県にゆかりのある百人一首（二条院讃岐、蟬丸など）												
・ おくのほそ道（松尾芭蕉）、啓発録（橋本佐内）・議事之体大意（由利公正）												
(単位：千円)												
区 分			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由		
当初予算額の推移							4,472	1,278	1,278			
2月現計予算額の推移												
決算額の推移												
[成果指標等の推移]												
区 分			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠		
成果指標	「今住んでいる地域や伝統、自然等に興味・関心があると答える児童・生徒の割合」	(目標) 実績								H31年度までに70%を目標とする。 (県学力調査質問紙の結果より)		
活動指標	古典音読・暗唱ノートを配布した学校数	(目標) 実績					268校					
[財源内訳・事業主体等]												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体		県				
予算額	4,472				4,472	事業実施方法		直営				
						補助率						

事業評価

事業名	古典学習支援事業	部局名	教育庁	課名	義務教育課	課長名	淵本 幸嗣
[事業の必要性・要求の背景]							
<ul style="list-style-type: none"> ・これまで、県内全ての小中学校に百人一首コーナー（小学校）や古典コーナー（中学校）を設置し、古典に親しむための環境整備を行うとともに、教員の指導用カード（百人一首カード、故事成語カード、論語カード）の作成・配布や公開授業などを行い、教員の指導力向上を図ってきた。 ・今後は、児童・生徒の教材として、「古典音読・暗唱ノート」を作成し、福井にゆかりのある百人一首などから日本語の美しい表現やリズムに親しむ機会を増やし、古典学習を充実する。 							
[受益者]				[想定される受益者数]			
小学校・中学校の児童・生徒							
他県の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路市教育委員会では、市内の小学校5・6年生、中学校1、2年生に「古典・名文暗唱ノート」を配布し、授業や朝の学習等で古典や名文の音読・暗唱に活用している。 	前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 （実績）				
関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 （役割分担）	市町との連携状況	（H27年度） <ul style="list-style-type: none"> ・百人一首に親しむための取組事例を各市町がそれぞれ1事例、A4版1ページにまとめて報告したものを、事例集として冊子にし、県内の全小学校に配布した。 ・各市町教育委員会が推薦する授業者による百人一首（小学校）および漢詩・論語（中学校）に関する公開授業を開催。 				
[事業の評価]							
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点		事業評価			
				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
				<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	
				<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

小学校教員理科指導力向上事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	教育庁	課名	義務教育課	課長名	淵本 幸嗣	
福井ふるさと元気宣言 における位置付け		■ 政推枠	ビジョン [元気な社会]			事業 区 分	<input type="checkbox"/> 国庫	■ 実行予算	事業 開始 年度	H24 年度 経過年数 5 年	事業終了 予定年度	H31 年度
関連する県の計画等			政策 [福井から人材育成]				<input type="checkbox"/> 県単	□ 補助金				
[事業目的]												
小学校理科5, 6年生教科担任制実施に伴い、小学校で理科を指導する教員の、観察・実験の指導力向上を図る。												
[事業内容]												
<ul style="list-style-type: none"> ○ 理科教員の教科担任制実施を踏まえた、指導力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 観察・実験の指導力向上の研修会を実施 県内7ブロックごとに研修会を開催、近隣の中学校理科教員や高校理科教員が指導者として参加し、小学校教員の指導力向上を図る。 ・ 全体研修会の実施（2月頃） 理科教育において顕著な活躍をされている講師を招いて、効果的な観察・実験の指導法を身につける。 ・ 理科授業の公開と授業研究会 大学の研究者を助言者として招聘し、発問や展開・評価など授業力の向上を図る。 												
(単位：千円)												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由			
当初予算額の推移			416	1,332	1,357	840	840	840	研修会講師謝金、職員旅費の減額など			
2月現計予算額の推移			1,257	1,332	1,357							
決算額の推移			941	1,113								
[成果指標等の推移]												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	理科の勉強は好きだと答える小学校6年生の割合 (目標) 実績	86.2%	86.6%	87.7%	85.0%				H31年度までに90%を目標とする。 (全国学力調査質問紙の結果より)			
活動指標	研修を受講した教員の数 (目標) 実績		(450) 473	(500) 564	(500)							
[財源内訳・事業主体等]												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体		県				
予算額	840				840	事業実施方法		直営				
						補助率						

事業評価

事業名	小学校教員理科指導力向上事業	部局名	教育庁	課名	義務教育課	課長名	淵本 幸嗣	
[事業の必要性・要求の背景]								
<ul style="list-style-type: none"> ・理科の授業は、薬品等の準備・管理や実験を行うなど、授業の準備が他の教科に比べて難しく、理科の事業を苦手としている先生が多い。 (文部科学省所管 独立行政法人・科学技術振興機構実施「小学校理科教育実態調査」教職経験10年未満の教員の約7割が理科の指導を苦手と回答) ・特に、小学校5、6年生は「電流」や「天体」など専門的な授業が多く、担任で免許を保有しておらず、指導を行う担任に対する研修を新たに行い、観察・実験などにおける指導力の向上を図る必要がある。 								
[受益者]				[想定される受益者数]				
小学校・中学校の児童・生徒				14,000人				
他県の状況				前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)			
関連事業の有無・役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)			市町との連携状況	・県内7ブロックでの研修会において、市町の指導主事や小教研・中教研が中心となって運営に携わっている。			
[事業の評価]								
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点			事業評価			
<ul style="list-style-type: none"> ・県内7ブロックにおいて授業研究会、観察実験講習会を実施 ・全体講演会では法政大学左巻健男教授を招聘し講演会を開催 		理科教員を対象とした県外講師による講演会を見直し、5、6年生の教科担任制実施に向けて、理科専門以外の授業担当者に対象を広げ、授業名人による観察実験講習会を開催する。			<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
					<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	△ 517
					<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

芸術教育推進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	内・外	部局名	教育庁	課名	義務教育課	課長名	淵本 幸嗣	
福井ふるさと元気宣言 における位置付け		■ 政推枠 ビジョン	[元気な県政]			事業 区分	<input type="checkbox"/> 国庫	■ 実行予算	事業 開始 年度	H25 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度	H31 年度
関連する県の計画等		政策	[国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化を芸術に]				<input type="checkbox"/> 県単	□ 補助金				
[事業目的]												
学校教育を通じて、音楽や美術など芸術面における体験活動を充実し、児童・生徒の感性や表現力の向上を図る。												
[事業内容]												
<p>(1) 弦楽器活動の育成 小・中学生、高校生の推進校に弦楽器を貸与し、県内外で活躍する弦楽器奏者を派遣し、技術・表現力の向上を図るとともに、合同練習会や発表会の機会を年3回設け、合奏練習を行う。また、平成28年度は、高志高校を新たに推進校とし、弦楽器演奏者のさらなる拡大を図る。 (推進校) ①福井市 社北小学校(H23)、社中学校(H25)、高志中学校(H28) ②越前市 王子保小学校(H27)、武生第六中学校(H27) ③越前町 朝日小学校(H26)、朝日中学校(H23)、④嶺南 雲浜小学校(H25)、小浜中学校(H26)、⑤藤島高校、高志高校、武生高校、丹生高校</p> <p>(2) 小学校での童謡・唱歌の活用</p> <p>(3) 日本画を活用した美術教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度より新たに、高校の部活動や授業に藝大の学生などを派遣し、実技指導を実施(嶺南、嶺北で年2回ずつ実施) ・全中学校、高校に越前和紙と日本画用絵の具を配布し、美術の授業で日本画を描く事業を実施 ・全小学校に越前和紙を配布し、図工の時間に、水墨画を描く事業を実施 												
(単位：千円)												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由			
当初予算額の推移			5,296	8,770	13,591	12,382			弦楽器購入費用の減額			
2月現計予算額の推移			5,296	8,762	13,167							
決算額の推移			4,623	7,949								
[成果指標等の推移]												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	弦楽器奏者数	(目標)			(140)	(170)	(200)	(200)	小中学校の弦楽器演奏者数			
		実績		85	98							
活動指標	発表会の回数	(目標)							小中学校の発表会件数			
		実績		48	57							
[財源内訳・事業主体等]												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体		県				
予算額	12,382				12,382	事業実施方法		直営				
						補助率						

事業評価

事業名	芸術教育推進事業	部局名	教育庁	課名	義務教育課	課長名	淵本 幸嗣
<p>[事業の必要性・要求の背景]</p> <p>[弦楽器奏者の育成] 県内に推進校を増設し、プロの講師から直接指導を受けることで弦楽奏者を増やし、演奏する機会を多く持つことで演奏する子どもたちも鑑賞する県民も広く弦楽の響きに親しみ、豊かな情操が養える。</p> <p>[日本画を活用した美術教育の推進] 学習指導要領において、我が国や郷土の伝統文化のよさを継承・発展させるための教育が求められており、次期改正の指導要領でも重要視されている。日本画用和紙として認められている越前和紙を活用した作品制作と県立美術館所蔵の重要文化財に匹敵する作品である「落葉」の鑑賞学習を授業に取り入れることは、県が推進しているふるさと教育の一環としても意義が大きい。</p>							
[受益者] 小中学生および高校生				[想定される受益者数] 89,000人			
他県の状況		前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)				
関連事業の有無・役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 ふくい文化の担い手育成事業 (役割分担)		市町との連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内すべての小学5年生に対して、音楽堂でオーケストラの演奏鑑賞などを実施 ・ [日本画を活用した美術教育の推進]における作品鑑賞について、「落葉」のレプリカを作成し学校に貸し出しや、出前授業を実施 			
[事業の評価]							
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点		事業評価			
[弦楽奏者の育成] ・ 推進校に越前市王子保小学校、武生第六中学校の2校を増設。 ・ 推進校においてプロの指導受講、演奏会の開催。 [日本画を活用した美術教育の推進] ・ 推進校22校で実施。授業参観のべ200名		[弦楽奏者の育成] ・ 推進校に県立高志中学校を増設し、高志高校と共同で練習を行い、弦楽奏者の数を効率的に増やす。 ・ 合同練習・演奏会の機会、著名な演奏家による指導の機会を増やし、奏者のレベルアップ、顧問の育成を図る。 [日本画を活用した美術教育の推進] ・ 高校の部活動や授業に藝大の学生などを派遣し、実技指導を行う。(嶺南、嶺北で年2回ずつ実施)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
				<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	△ 1,209
				<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

土曜日の教育活動推進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	内	部局名	教育庁	課名	義務教育課	課長名	淵本 幸嗣	
福井ふるさと元気宣言 における位置付け	<input type="checkbox"/>	政推枠	ビジョン [元気な社会]			事業 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 国庫	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算	事業 開始 年度	H26 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度	H31 年度
		政策 [福井から人材育成]			<input type="checkbox"/> 県単		<input type="checkbox"/> 補助金					
関連する県の計画等		[教育振興基本計画]			<input type="checkbox"/> その他		<input type="checkbox"/> その他					

[事業目的]

質の高い土曜授業を推進するため、外部人材、特別非常勤講師を活用した土曜授業を支援する。

[事業内容]

○児童生徒の代休日を設けずに土曜日を活用して、質の高い土曜授業を推進する。

- (1) 県内1つの地域を「土曜授業推進地域」に指定し、該当地域の1つの中学校と、その校区内の小学校を研究推進校に指定し、月1回程度、土曜ならではの特性を生かし、質の高い土曜授業を実施するため、外部人材の謝金・旅費、民間事業者の活用等を支援
- (2) 推進校は、学校の実態に応じて、具体的な取組内容を教育活動に位置付け、家庭や地域、関係機関と連携して実践研究を行う。

※土曜授業の例（補充学習・発展的学習、体験活動、科学実験教室）

(単位：千円)

区 分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由
当初予算額の推移			2,291	2,918	1,670	1,670	1,670	事業実施市町の変更に伴う減額
2月現計予算額の推移			2,291	1,952				
決算額の推移			1,306					

[成果指標等の推移]

区 分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠
成果指標								文部科学省のモデル事業であり、数値目標を定めることが困難なため
活動指標								土曜事業実施回数
				59				

[財源内訳・事業主体等]

区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体	県
予算額	1,670	1,670			0	事業実施方法	直営
						補助率	

事業評価

事業名	土曜日の教育活動推進事業	部局名	教育庁	課名	義務教育課	課長名	淵本 幸嗣	
[事業の必要性・要求の背景]								
<ul style="list-style-type: none"> ・ 福井県ではH26に若狭町（5小学校1中学校）、H27に美浜町（3小学校、1中学校）において研究推進を行ってきた。その結果、学校、地域、家庭が連携した学校独自のカリキュラムの開発が進められており、特に、地域人材を生かした活動は成果が大きく、質の高いものとなっている。 ・ また、体験学習は授業時数の確保が課題となっているが、土曜授業では、そういった課題も解決でき、全国的には補充的な教科の学習を主に置いている地域・学校が多くなっており、引き続き、「土曜授業」の在り方を研究していく必要がある。 								
小学校・中学校の児童・生徒				[想定される受益者数]				
140名								
他県の状況	<p>[石川県]</p> <p>H27：2地区の小中学校で実施</p> <p>○中能登町小中学校4校…習熟度別指導、補充学習、マナーやコミュニケーションに関する授業など（各教科・道徳・特別活動）</p> <p>○輪島市小中学校13校…各教科における補充学習、発展学習、習熟度別指導、少人数指導、TT指導等（各教科）</p> <p>[富山県]</p> <p>H27：滑川市の小中学校で実施</p> <p>○滑川市小学校7校、中学校2校…公開授業、伝統文化学習</p>			前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 （実績）			
関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 （役割分担）			市町との連携状況	・「カリキュラム検討委員会」の開催・運営を行い、効果的なカリキュラムの開発や地域人材の発掘を行う。			
[事業の評価]								
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点			事業評価			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 美浜町3小学校（美浜東小学校、美浜中央小学校、美浜西小学校）、1中学校（美浜中学校）における研究推進。 ・ 「キャリア教育」（地域の職業調べ、職場体験活動）、「学力・体力向上」（習熟度別学習、伝承遊び、地域スポーツ等）をテーマに、地域人材を中心とした県内外の講師を活用する。 		・新たに、土曜授業推進地域を指定し、休日を活用した質の高い授業を実施していく。			<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
					<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	
					<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

小中学校ふくい理数グランプリ事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	シーリング	内	部局名	教育庁	課名	義務教育課	課長名	淵本 幸嗣	
福井ふるさと元気宣言における位置付け	<input type="checkbox"/> 政推枠	ビジョン	[元気な社会]			事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 国庫	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算	事業開始年度	H20 年度 経過年数 9 年	事業終了 予定年度	H31 年度
関連する県の計画等		政策	[福井から人材育成]				<input type="checkbox"/> 県単	<input type="checkbox"/> 補助金				
[事業目的]												
<p>授業で学習したことを元にして、実生活に関連した課題に取り組むことにより、数学・理科や科学技術に対する興味や関心を喚起するとともに、科学的な思考力・判断力・表現力等を育成する。</p>												
[事業内容]												
<p>①ふくい理数グランプリ(中学校部門)の開催 (チャレンジステージ、グランプリ本選、科学の甲子園ジュニア福井県最終選考会)</p> <p>②中高接続のための「理数ゼミ」の開催 ふくい理数グランプリで上位に位置した中学1・2年生60名を対象に実施</p> <p>③科学の甲子園ジュニアへの対策 科学の甲子園ジュニアへの上位入賞対策を実施</p> <p>④ふくい理数グランプリ(小学校部門)の新規開催</p>												
(単位：千円)												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由			
当初予算額の推移				716	969	1,308	1,308	1,308	小学校理数グランプリ新設に伴う増額			
2月現計予算額の推移				716	969							
決算額の推移				336								
[成果指標等の推移]												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	算数・数学や理科の勉強が好きだと答える児童生徒の割合 (目標)	71.4%	70.9%	72.8%	69.7%				H31年度までに75%を目標とする。 (全国学力調査質問紙の結果より)			
	実績											
活動指標	理数グランプリ参加者数 (目標)	311名	843名	1128名	1090名				H31年度までに1,500名を目標とする。			
	実績											
[財源内訳・事業主体等]												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体	県					
予算額	1,308			(諸) 484	824	事業実施方法	直営					
						補助率						

事業評価

事業名	小中学校ふくい理数グランプリ事業	部局名	教育庁	課名	義務教育課	課長名	淵本 幸嗣	
[事業の必要性・要求の背景]								
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で学習したことを元にして、実生活に関連した課題に取り組むことにより、数学・理科や科学技術に対する興味や関心を喚起するとともに、科学的な思考力・判断力・表現力等を育成するための事業であり、年々参加者が増え、昨年度から1100名の中学生が参加している。 ・ しかし、小学校から中学校に進学すると、理科嫌い・理科離れの傾向が見られる。このため、夏休みに「ふくい理数グランプリ（小学校部門）」を新設し、小学校段階から、理数に対する興味・関心を持たせる。 （「理科が好き」小6 85.0%→中3 69.3% 「理科の勉強は役に立つ」小6 78.0%→中3 55.2%） 								
[受益者]				[想定される受益者数]				
小学校・中学校の児童・生徒				1,500人				
他県の状況	石川県 ・ 県内各地より、石川県中学生サイエンスチャレンジ上位入賞チーム11校12チーム36名の中学生が参加し、筆記競技・実技競技に挑戦 富山県 「とやま科学オリンピック」事業 ・ 平成23年度から、夏休みに年1回、教科書に掲載されていない理数の筆記試験などを実施し、平成27年度は377名が受験を行った。 （H27全国学力調査 小学校理科 富山県1位 福井県2位）			前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 （実績）			
関連事業の有無・役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 ふくいサイエンスプロジェクト事業 （役割分担） 高校教育課 高校部門ふくい理数グランプリの開催			市町との連携状況				
[事業の評価]								
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点			事業評価			
・ チャレンジステージ（予選）1,090名参加 県内6会場で開催 ・ グランプリ本選 22チーム 66名参加 ・ 科学の甲子園ジュニア福井県最終選考会 21チーム 63名参加		ふくい理数グランプリ（小学校部門）の新設 ・ 小学校から中学校に進むと、理科嫌い・理科離れの傾向が見られるため、小学校段階から、理数に対する興味・関心を一層涵養する必要がある。 ・ 授業で学習したことを元にして、実生活に関連した課題に取り組むことにより、数学・理科や科学技術に対する興味や関心を喚起するとともに、科学的な思考力・判断力・表現力等を育成する。			<input checked="" type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
					<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	
					<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

地域と進める体験推進事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	教育庁	課名	義務教育課	課長名	淵本 幸嗣	
福井ふるさと元気宣言における位置付け		■ 政推枠	ビジョン [元気な社会]			事業区分	<input type="checkbox"/> 国庫	■ 実行予算	事業開始年度	H28 年度	事業終了予定年度	H31 年度
関連する県の計画等			政策 [福井から人材育成]				<input type="checkbox"/> 県単	□ 補助金				
			[教育振興基本計画]			<input type="checkbox"/> その他	□ その他					
[事業目的]												
児童・生徒が地域の人々とともに、みずから企画・提案した体験学習を行うことにより、ふるさと福井に誇りや愛着を持つ人材を育成する。												
[事業内容]												
<p>○児童・生徒が自らの地域の課題等の改善を企画・提案する体験学習を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井型コミュニティ・スクールを進化させ、すべての小・中学校に、学校と地域住民、企業などの橋渡しを行う「地域コーディネーター」を委嘱。地域が学校に積極的に関わる体制を整備し、子どもたちの体験活動を進化 ・児童・生徒が地域の特産品のPR、まちづくりへの参画など体験活動を実施 <p style="margin-left: 20px;">活動内容(例) ・まちづくりへの参画 ・地域行事のPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度はモデル校28校を指定し、平成30年度までに全小中学校(258校)で実施 ・体験活動費用を助成(1校 20万円を上限 県1/2、市町1/2) 												
(単位：千円)												
区 分			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由		
当初予算額の推移							2,800	14,300	25,800			
2月現計予算額の推移												
決算額の推移												
[成果指標等の推移]												
区 分			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠		
成果指標	「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」児童の割合(小学校)	(目標) 実績								H31年度までに50%を目標とする。 (全国学力調査質問紙の結果より)		
	「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」生徒の割合(中学校)	(目標) 実績										
活動指標	地域参画の体験活動を実施した学校数	(目標) 実績					(28)	(143)	(258)			
[財源内訳・事業主体等]												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体	市町教育委員会					
予算額	2,800				2,800	事業実施方法	補助					
						補助率	1/2					

事業評価

事業名	地域と進める体験推進事業	部局名	教育庁	課名	義務教育課	課長名	淵本 幸嗣	
[事業の必要性・要求の背景]								
<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校では、学校が主体となって米づくりなどの農業体験や、校外学習による文化・芸術体験などが行われており、児童・生徒にとって教室では学べない貴重な経験となっている。 ・すべての小中学校で体験活動が実施されているが学校が用意したメニューをこなす形の体験活動が大半であり、児童・生徒が受身となり、主体的・積極的な活動となっていない。 								
[受益者]				[想定される受益者数]				
小学校・中学校の児童・生徒				66,000人				
他県の状況	近県において、児童・生徒のまちづくりのための体験活動に対して教育委員会所管事業として予算計上している県はない。			前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 福井型コミュニティ・スクール推進事業 (実績) 平成15～17年度 全市町にモデル校28校に設置 平成18年度 105校に設置 平成19年度 159校に設置			
関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)			市町との連携状況	市町が各小中学校のコミュニティ・スクール計画書と報告書を取りまとめ、県に提出している。			
[事業の評価]								
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点			事業評価			
					<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
					<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	
					<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

幼児教育支援事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	教育庁	課名	義務教育課	課長名	淵本 幸嗣	
福井ふるさと元気宣言 における位置付け		■ 政推枠	ビジョン [元気な社会]			事業 区分	<input type="checkbox"/> 国庫	■ 実行予算	事業 開始 年度	H25 年度 経過年数	事業終了 予定年度	H31 年度
関連する県の計画等		政策 [福井から人材育成]			<input type="checkbox"/> 県単		<input type="checkbox"/> 補助金	<input type="checkbox"/> その他				
[事業目的]												
保育所・幼稚園等の幼児教育現場や幼児の家庭における幼児教育力の一層の向上を図るため、幼児教育支援プログラムに掲げる施策を推進する。												
[事業内容]												
(1) 幼児教育力指導力向上事業 ① 幼児教育キャリアアップシステムの創設 幼児教育力向上会議の開催 ② 先生による研究グループの設置 保幼小接続カリキュラムの実践事例研究 ③ 幼児教育のリーダー（市町幼児教育アドバイザー、園内リーダー）の養成 幼児教育の質向上のための園訪問による実践研修、事例検討会等の実施 ④ 保幼小接続カリキュラムに基づく教育の推進 保幼小接続講座の開催						(2) 家庭の幼児教育力向上事業 ① 親力アドバンスコース事業 保護者の一日保育体験の実施 （保育体験に活用する教材の支給） (3) 遊び活性化プロジェクト事業 ① 童謡・唱歌を通じた家族のふれあい促進 童謡歌手（由紀さおり）による「童謡で伝える会」						
(単位：千円)												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由			
当初予算額の推移			10,550	13,914	11,254	8,461	8,461	8,461	保幼小接続カリキュラムの印刷経費などの減額			
2月現計予算額の推移			10,550	12,185	8,754							
決算額の推移			7,388	7,418								
[成果指標等の推移]												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	園内リーダーの養成人数 (目標) 実績								H31年度までに359園全てに園内リーダーの養成を行う。			
活動指標	幼稚園・保育園合同研修 実施回数 (目標) 実績	23	38	51								
[財源内訳・事業主体等]												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体		県				
予算額	8,461				8,461	事業実施方法		直営				
						補助率						

事業評価

事業名	幼児教育支援事業	部局名	教育庁	課名	義務教育課	課長名	淵本 幸嗣	
[事業の必要性・要求の背景]								
<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年3月に策定した「学びに向かう希望のバトンカリキュラム」に基づき保幼小接続を推進するため、全小学校区で保幼小接続カリキュラムを実践しているが、連携・接続にかかる段階の差や温度差が市町や学校・園で大きい。 ・幼児の質を高めるための人材の育成が必要であるが、小・中・高校教諭の研修体制と比べ保育者の研修体制整備が不十分であり、公私園種の形態も多様である。このため、小学校教諭、保育者が園や小学校での子どもの姿を理解するため、両者を対象とした講座の開催や、園・小学校での実践事例を発信し、より保幼小接続を推進する必要がある。 								
[受益者]				[想定される受益者数]				
保育所・幼稚園・認定こども園・小学校の職員、園児・児童およびその保護者								
他県の状況		前事業の有無・実績		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	事業名 (実績)			
関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)	市町との連携状況		・市町レベルで保育所、幼稚園、認定こども園を指導助言できる人材として、市町幼児教育アドバイザーの養成（市町はアドバイザーの推薦） 保幼小接続講座を市町合同で開催				
[事業の評価]								
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点		事業評価				
・平成27年3月に策定した「学びに向かう希望のバトンカリキュラム（福井県保幼小接続カリキュラム）」を核として、幼児教育の質の向上を図るため、県、大学、市町が連携した幼児教育研修システムを体系化 （市町幼児教育アドバイザー28名、園内リーダー149名養成予定） ・一日保育体験を通じた保護者の教育力の向上 親力アドバンスコース事業参加者数2,023名予定		・昨年度、幼児教育フォーラムを開催し、他県に向け、福井県の取り組みをPRすることができた。 ・引き続き、保幼小接続カリキュラムを活用し、全市町（17市町）に市町幼児教育アドバイザー、全園（359園）に園内リーダーを養成するための研修を実施していく。		<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 整理統合	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の見直し <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他	見直し額 △ 2,793	

家庭の教育力向上事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	シーリング	内	部局名	教育庁	課名	義務教育課	課長名	淵本 幸嗣	
福井ふるさと元気宣言 における位置付け	<input type="checkbox"/>	政推枠	ビジョン [元気な社会]			事業 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 国庫	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算	事業 開始 年度	H28 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度	H31 年度
		政策 [福井から人材育成]			<input type="checkbox"/> 県単		<input type="checkbox"/> 補助金					
関連する県の計画等		[教育振興基本計画]			<input type="checkbox"/> その他		<input type="checkbox"/> その他					
[事業目的]												
<p>学校教育だけでは対応困難な、テレビゲーム、インターネット等の長時間使用によって起こる子どもの問題行動を抑制するため、基本的な生活習慣の定着や親子読書を通じた親子の触れ合いの大切さを啓発し、家庭の教育力向上を目指す。</p>												
[事業内容]												
<p>①テレビゲーム、インターネット等の長時間使用がもたらす弊害や、規則正しい生活や親子読書の大切さを保護者に啓発するリーフレットを新たに作成し、県内すべての小中学生の保護者に対し、家庭教育の重要性を再認識させる。</p> <p>②県PTA連合会と連携し、基本的な生活習慣や親子読書の大切さに関する研修会を5ブロックで実施し家庭の教育力の向上を推進する。</p>												
(単位：千円)												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由			
当初予算額の推移						677	677	677				
2月現計予算額の推移												
決算額の推移												
[成果指標等の推移]												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	児童生徒の1年間の読書冊数							(45)	H31年度までに45冊を目標とする。			
活動指標	家庭教育パンフレットを配布した学校数					(268校)						
[財源内訳・事業主体等]												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体		県				
予算額	677	677			0	事業実施方法		直営				
						補助率						

事業評価

事業名	家庭の教育力向上事業	部局名	教育庁	課名	義務教育課	課長名	淵本 幸嗣
<p>[事業の必要性・要求の背景]</p> <p>・ テレビゲーム、インターネット等を長時間利用し生活習慣が乱れている児童・生徒は、学力が低い傾向にある。 インターネットの利用時間と全国学力調査の正答率の関係 (H26) 利用なし 小学校 国語76.2%、中学校 数学78.0% 4時間以上 小学校 国語64.1%、中学校 数学62.3% ・ 学校や家で月に1冊も本を読まない児童・生徒 (H26) 小学校 15.8% 中学校 33.0% ・ 読書好きの児童・生徒の割合が低い (H27) 小学校 71.5% (35位) 中学校 66.0% (35位)</p>							
[受益者] 小中学生				[想定される受益者数] 66,000人			
他県の状況		前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)				
関連事業の有無・ 役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 地域で支える子育て・親育ち支援事業 (役割分担) ・ 家庭教育支援テレビ放送委託事業 (11,043千円) 家庭教育に関する諸問題を取り上げたテレビ放送 ・ 相談事業 (1,423千円) 家庭教育に関する相談を通して、親としての育ちを支援する体制強化		市町との連携状況				
[事業の評価]							
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点		事業評価			
				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
				<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	
				<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	